

2016 年家計調査年報〔家計収支編〕

家計消費傾向と品目別支出金額
調査報告書

2017 年 9 月

東松島市商工会

目次

家計調査（総務省統計局）の調査方法について	3
平成 28 年度家計調査〔家計収支編〕より	4
1. 1 世帯当たり 1 か月平均の消費支出	4
2. 二人以上の世帯の 10 大費目別消費支出と内訳	5
3. 勤労者世帯の 1 世帯当たりの 1 か月平均の実収入	5
4. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の家計収支	6
5. 高齢無職世帯の消費支出は、65～69 歳で最も高い	6
6. 世帯主の年齢階級別支出	7
7. 1 世帯当たり年間品目別支出金額（二人以上の世帯）	8

家計調査（総務省統計局）の調査方法について

家計調査は、都市別、地域別、収入階級別、そのほか世帯の特性による集計結果によって、家計収支の実態を毎月明らかにし、国の政策の基礎資料としています。

対象は学生の単身世帯を除く全世帯です。ただし、飲食店や旅館などを営む併用住宅の世帯、賄い付の同居人がいる世帯、外国人世帯などを除きます。調査対象の選定にあたっては、特定の地域や地理的な特性などが偏らないように、層化3段抽出法という方法を使い、全国の約8000世帯を対象に調査を実施しています。

平成 28 年度家計調査〔家計収支編〕より

1. 1 世帯当たり 1 か月平均の消費支出

消費支出の近年の状況として、2014 年は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要がみられたものの、その後の反動減や夏場の天候不順の影響などもあって減少となった。2015 年 (-2.3%)、2016 年 (-1.7%) は、減少幅は縮小したものの、2014 年以降 3 年連続の実質減少となった。

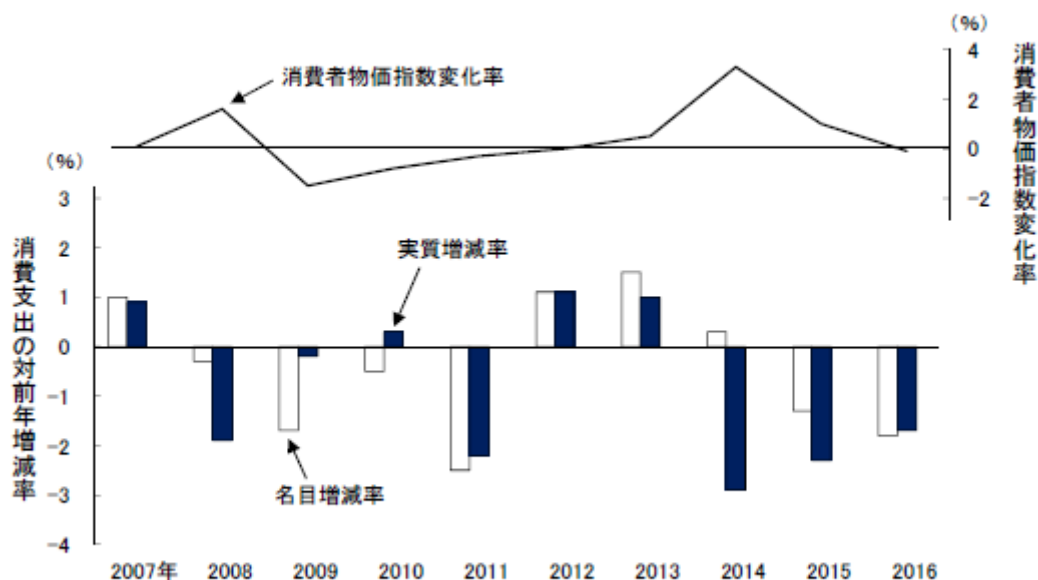
2016 年の総世帯 (平均世帯人員 2.35 人、世帯主の平均年齢 59.0 歳)

2016 年の二人以上の世帯 (平均世帯人員 2.99 人、世帯主の平均年齢 59.2 歳)

総世帯は、	2 4 2, 4 2 5 円	
前年同期比	名目 1. 9%の減少	実質 1. 8%の減少
二人以上の世帯は、	2 8 2, 1 8 8 円	
前年同期比	名目 1. 8%の減少	実質 1. 7%の減少

◇消費支出の対前年実質増減率の推移

図 I - 1 - 1 消費支出の対前年増減率の推移 (二人以上の世帯)



(注) 消費者物価指数は、「持家の帰属家賃を除く総合」である。

※2016年の総世帯の消費支出が、前年に比べ実質1.8%の減少と、二人以上の世帯（実質1.7%の減少）及び単身世帯（実質0.6%の減少）に比べて減少幅が大きくなっていることについては、二人以上の世帯及び単身世帯の世帯構成割合が変化し、消費支出水準の低い単身世帯の割合が上昇したことによる。

2. 二人以上の世帯の10大費目別消費支出と内訳

10大費目中、「保健医療」、「教育」を除いて、8費目が実質減少となった。

項 目	金額（円）	対前年増減率（％）		実質増減率への寄与度（％）	摘 要	
		名 目	実 質			
消 費 支 出	261,011	-1.8	-1.7	-1.7	（ 増 加 ）	（ 減 少 ）
食料	72,934	1.5	-0.2	-0.04	調理食品	魚介類、野菜、海藻など
住居	16,679	-7.0	-7.4	-0.46		設備修繕、維持及び家賃地代
光熱・水道		-8.7	-1.5	-0.12		ガス代、電気代
家具・家事用品	10,329	-1.2	-0.8	-0.03	家事用消耗品	家事雑貨
被服及び履物	10,878	-4.3	-6.0	-0.24		洋服、シャツ・セーター類
保健医療	12,888	1.8	0.9	0.04	保健医療用品・器具及び医薬品	
交通・通信	39,054	-2.9	-0.9	-0.13	通信	自動車等関係費及び交通
教育	11,310	2.9	1.3	0.05	授業料等	補習教育
教養娯楽	28,159	-0.5	-1.5	-0.15		教養娯楽サービス、書籍・他の印刷物
その他の消費支出	58,780	-2.6	-2.5	-0.53		交際費、こづかい

3. 勤労者世帯の1世帯当たりの1か月平均の実収入

二人以上の世帯において、実収入のうち勤め先収入の内訳をみると、世帯主の臨時収入・賞与及び世帯主の配偶者の収入及び他の世帯員収入は名目増加、世帯主の定期収入は名目減少となった。

総世帯は、	461,577 円
前年同期比	名目 1.6%の減少 実質 1.5%の減少
二人以上の世帯は、	526,973 円
前年同期比	名目 0.2%の増加 実質 0.3%の増加

4. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯の家計収支

1) 実収入は名目0.2%の増加、実質0.3%の増加

勤労者世帯（平均世帯人員3.39人、世帯主の平均年齢48.5歳）の実収入は、1世帯当たり1か月平均526,973円

2) 非消費支出は名目0.1%の減少

直接税、社会保険料などの非消費支出は98,276円で、前年に比べ名目0.1%の減少となった。

3) 可処分所得は実質0.4%の増加

可処分所得（実収入から直接税、社会保険料などの非消費支出を差し引いた額）は428,697円。

4) 消費支出は実質1.7%の減少

消費支出は309,591円。2012年、2013年と2年連続で増加となったが、2014年以降は3年連続で実質減少となったが、減少幅は2015年、2016年と縮小している。

5) 平均消費性向（可処分所得に対する消費支出の割合）は1.6ポイントの低下

平均消費性向は72.2%となり、前年に比べ1.6ポイントの低下。

黒字は119,106円となり、前年に比べ名目6.4%の増加となった。黒字率は27.8%となり1.6ポイントの上昇となった。

*黒字とは、可処分所得から消費支出を差し引いた額。黒字率とは、可処分所得に対する黒字の割合

5. 高齢無職世帯の消費支出は、65～69歳で最も高い

消費支出を見ると65～69歳の世帯が最も高く、次いで60～64歳の世帯、70～74歳の世帯、75歳以上の世帯の順になっている。同様に、可処分所得に対する家計の赤字額も大きくなっており、貯蓄からの出費がみてとれる。

表Ⅱ-1-3 世帯主の年齢階級別家計収支（二人以上の世帯のうち高齢無職世帯）—2016年—

項目	平均	(円)			
		60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
世帯数分布(1万分比)	10,000	808	2,302	2,494	4,396
世帯人員(人)	2.40	2.59	2.55	2.37	2.31
世帯主の年齢(歳)	73.7	62.5	67.1	72.1	80.2
持家率(%)	94.2	92.9	94.9	93.3	94.7
実収入	208,111	171,086	213,409	212,758	209,774
社会保障給付	175,312	109,955	172,455	185,238	183,451
非消費支出	29,024	30,651	32,806	30,692	25,782
可処分所得	179,087	140,435	180,603	182,066	183,991
消費支出	239,604	252,174	262,042	242,208	224,092
黒字	-60,517	-111,739	-81,439	-60,142	-40,100
平均消費性向(%)	133.8	179.6	145.1	133.0	121.8
黒字率(%)	-33.8	-79.6	-45.1	-33.0	-21.8

(注) 高齢無職世帯とは、世帯主が60歳以上の無職世帯である。

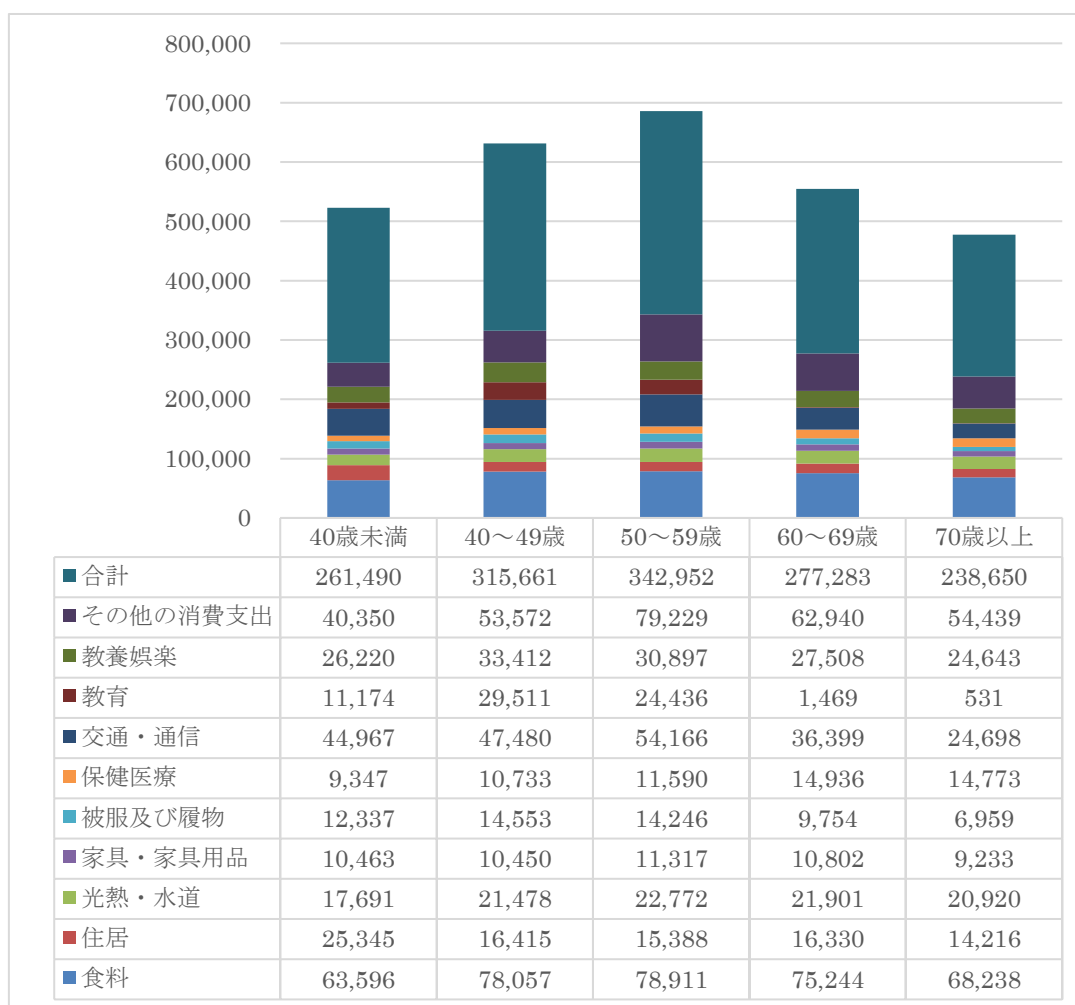
6. 世帯主の年齢階級別支出

◇消費支出は50～59歳の世帯を除き、実質減少

二人以上の世帯の消費支出を世帯主の年齢階級別にみると、40歳未満の世帯は1世帯当たり1か月平均261,490円、40～49歳の世帯は315,661円、50～59歳の世帯は342,952円、60～69歳の世帯は277,283円、70歳以上の世帯は238,650円となった。

対前年実質増減率をみると、60～69歳の世帯で実質4.1%の減少、40歳未満の世帯で実質2.4%の減少、40～49歳の世帯で実質1.1%の減少、70歳以上の世帯で実質0.2%の減少となった。一方、50～59歳の世帯で実質1.0%の増加となった。

世帯主の年齢階級別消費支出



7. 5万人以下の小都市・町村の1世帯当たり年間品目別支出金額（二人以上の世帯）

都市階級別の品目支出金額より、下記表の通り独自に抽出しました。金額は、ここ数年微妙な浮き沈みの中で推移しており、大きな変化は少ない状況です。

干しのり	2,428	日本そば・うどん	4,749	温泉・銭湯入浴料	2,524
しょう油	2,168	中華そば	6,201	理髪料	5,618
みそ	2,337	すし(外食)	13,730	パーマメント代	3,708
まんじゅう	2,118	和食	17,881	カット代	5,065
他の和生菓子	8,707	中華食	2,926	他の理美容代	15,423
ケーキ	5,955	洋食	8,753	化粧クリーム	3,904
ゼリー	1,724	焼肉	6,854	化粧水	3,960
プリン	1,335	喫茶代	3,470	乳液	1,391
他の洋生菓子	6,436	設備修繕・維持	91,391	ファンデーション	2,340
清酒	6,103	畳替え	1,256	祭具・墓石	7,810
焼酎	7,260	整骨・鍼灸治療	1,783	医療保険料	16,490
ビール	11,867	マッサージ料金	1,887	非貯蓄型保険料	64,083
ウイスキー	1,334	自動車整備費	24,494	自賠償	11,102
ワイン	2,006	切り花	10,176	自動車(任意)	45,687
発泡酒等	10,141	宿泊料	19,366	他の家事雑貨	12,166

◇商圈市場規模の目安

上記表は、5万人以下の市町村に住む1世帯（二人以上の世帯）当たり年間平均支出金額です。現在、東松島市の世帯数（平成29年8月1日現在）は、人口40,265人、世帯数15,642世帯でした。これを理解のうえ、おおよその世帯を乗ずることで商圈における目安の市場規模が算出されます。ただし、あくまで目安であることの想定としてください。